

世界標準債券ファンド（1年決算型） <愛称 ニューサミット（1年決算型）>

償還 運用報告書（全体版）

第12期（償還）（償還日 2026年6月24日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

「世界標準債券ファンド（1年決算型）」は、信託約款の規定に基づき、2026年6月24日に信託期間が終了し、償還いたしました。

ここに、設定以来の運用状況と償還内容をご報告いたしますとともに、受益者のみなさまのご愛顧に對しまして、重ねてお礼申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2014年6月2日から2026年6月24日までです。
運用方針	主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.amova-am.com

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

<642363>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】
・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 券 組 入 比 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落 中 率			
	円 銭		円		%	%	百万円
8期(2022年7月19日)	11,284		0	15.0	—	97.1	319
9期(2023年7月18日)	12,741		0	12.9	—	97.0	273
10期(2024年7月17日)	13,998		0	9.9	0.1	97.0	283
11期(2025年7月17日)	13,635		0	△ 2.6	0.1	97.1	248
(償還時)	(償還価額)						
12期(2026年6月24日)	15,661.27		—	14.9	—	—	264

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。
(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

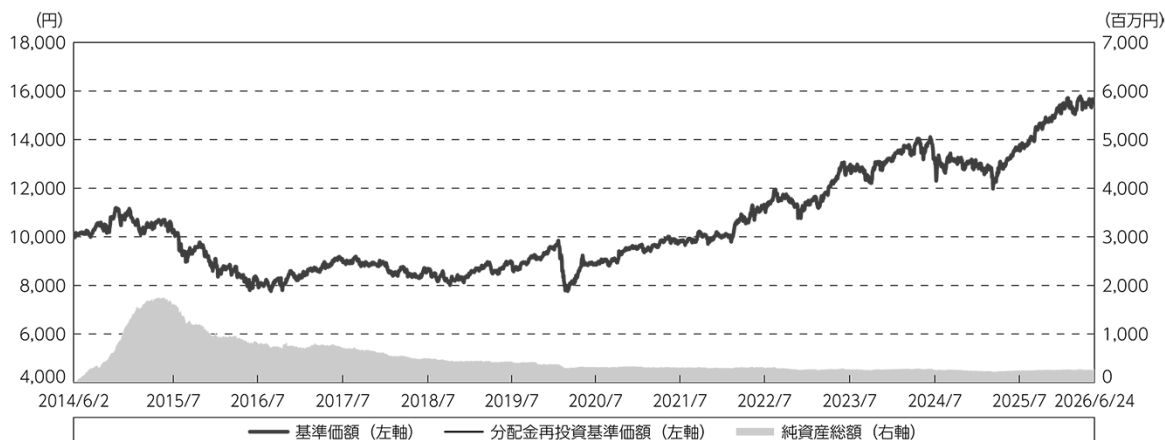
年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 比 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率
		騰 落	率		
(期 首)	円 銭		%	%	%
2025年7月17日	13,635		—	0.1	97.1
7月末	13,682		0.3	0.1	97.0
8月末	13,781		1.1	0.1	97.1
9月末	14,055		3.1	0.1	97.0
10月末	14,667		7.6	0.1	97.1
11月末	14,805		8.6	0.1	97.1
12月末	14,899		9.3	0.1	97.0
2026年1月末	15,080		10.6	0.1	96.9
2月末	15,667		14.9	0.1	96.9
3月末	15,048		10.4	0.1	96.9
4月末	15,583		14.3	0.1	96.9
5月末	15,538		14.0	0.1	97.0
(償還時)	(償還価額)				
2026年6月24日	15,661.27		14.9	—	—

(注) 騰落率は期首比です。
(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

(2014年6月2日～2026年6月24日)

設定以来の基準価額等の推移



設 定 日：10,000円

期末(償還日)：15,661円27銭 (既払分配金(税込み)：0円)

騰 落 率： 56.6% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっておりまいた。信託期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

＜値上がり要因＞

- ・ 利回りの高い現地通貨建て債券への投資によるインカム収入を得たこと。
- ・ 保有債券の利回りが低下（債券価格は上昇）したこと。
- ・ 新興国通貨が対円で上昇したこと。

＜値下がり要因＞

- ・ 期間の終盤にかけて債券利回りが上昇（債券価格は下落）したこと。
- ・ 投資対象通貨のボラティリティ（変動性）が対円で時折高まったこと。
- ・ 無担保コール翌日物金利がマイナス圏で推移したこと（2016年4月から2024年3月中旬まで）。

投資環境

（海外債券市況）

2014年には、米国連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）が量的緩和を徐々に縮小し始め、同年の終盤に終了しました。一方で、米国以外に目を向けると、低インフレや経済に対する懸念を受けて、複数の中央銀行が金融緩和に着手しました。欧州中央銀行（ＥＣＢ）が2015年に量的緩和を開始したほか、日銀は2013年に開始した量的・質的金融緩和を維持しました。

2016年末にトランプ氏が米国の大統領に選出され、保護主義的な政策が打ち出されると、米国株式市場とアメリカドルがともに好調に推移し、2018年頃に世界の経済成長が失速するなかでも、米国経済は底堅さを維持し、ＦＲＢは利上げを進めました。米国の保護主義的な政策の影響などを受けて、2019年頃には、ＦＲＢ、ＥＣＢ、オーストラリア準備銀行（ＲＢＡ）、ニュージーランド準備銀行（ＲＢＮＺ）などの中央銀行が利下げの開始や金融緩和を維持するなか、債券市場は上昇しました。

2020年序盤には、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的流行）が発生したことを受けて、世界経済は大きな混乱に陥り、市場のボラティリティが高まりました。各国の政府が厳しいロックダウン（都市封鎖）を実施し、過去最大規模の財政出動を実施した結果、経済は大きく縮小した後、緩やかな回復に向かいました。しばらくして、新型コロナウイルスのワクチン接種が実施されたほか、米国の大統領選挙でバイデン氏が勝利すると、リスク選好姿勢が強まるなかで金利が上昇し、2022年にＦＲＢなどの中央銀行は政策金利の引き上げを開始しました。

2022年には、ロシアがウクライナに侵攻したことを受けて地政学的緊張が高まり、原油や天然ガスを中心とするコモディティ価格が高騰しました。これによりインフレ圧力が強まったことから、主要中央銀行は追加利上げを実施しました。2022年終盤には、市場のボラティリティが急上昇しましたが、2023年序盤に投資家心理が改善すると、株式および債券市場の両方が上昇しました。しかし、米国の経済指標が良好であるとともにインフレが高止まりしていたことを受けて、米国を中心に追加利上げが実施され、債券利回りが上昇しました。また、2023年には、パレスチナ自治区ガザ地区における地政学的緊張の高まりを受けて、市場の安定性が懸念されました。こうしたなか、ＦＲＢがハト派（景気に対して弱気）的な姿勢に転じたとの見方を受けて2023年末に市場で楽観的な姿勢が再び広がると、債券および株式市場はともに堅調に推移しました。

2024年第１～３四半期は、世界的に金融政策が緩和へと大きく方向転換し、ＦＲＢやＥＣＢなどの中央銀行は経済成長の鈍化やインフレの減速などを受けて利下げを開始しました。ＦＲＢは2024年９月に政策金利を0.50%引き下げて、利下げサイクルを開始しました。ＥＣＢはＦＲＢに先駆けて利下げサイクルを開始していましたが、その後も追加利下げを実施する方針を示しました。また、日銀は７月に市場予想に反して利上げを実施しました。日銀の政策金利の引き上げを受けて、円が主要通貨に対して上昇した一方、アメリカドルはＦＲＢの利下げを受けて、主要通貨に対して下落しました。2024年末には政治に関する話題が市場の関心を集め、トランプ氏が米国大統領選挙で勝利したことを受けて株式市場が上昇しました。しかし、関税や地政学的緊張の高まりに対する懸念が投資家の期待を後退させました。ＦＲＢが将来の利下げに対して予想以上に慎重な見通しを示したことも、2025年に向けた市場の先行き不透明感を強めました。一方、欧州では政治面の不安定さや依然として引き締めの金融政策による圧力に苦しみました。

2026年序盤には、中東情勢が持続的なエネルギー・貿易ショックへと発展し、地政学的緊張が急激に高まりました。ホルムズ海峡の封鎖により、原油価格は大幅に上昇しました。この結果、インフレ圧力の高まりや輸送コストの上昇、サプライチェーン（供給網）の混乱などがエネルギー輸入国の経済に重くのしかかり、スタグフレーション（不景気の中で物価が上昇すること）のリスクが世界的に強まるとともに、先進国・新興国の両方において金融政策の引き締めを促しました。

（国内短期金利市況）

設定時から2016年２月前半にかけては、日銀による「量的・質的金融緩和」の推進などから、無担保コール翌日物金利は概ね0.1%を下回る水準で推移しました。その間、国庫短期証券（ＴＢ）３ヵ月物金利は2014年９月にはマイナス金利まで低下し、その後も概ね0.0%を挟んだ水準で推移しました。

2016年２月後半から2024年３月中旬にかけては、日銀によるマイナス金利政策の導入を受けて、無担保コール翌日物金利とＴＢ３ヵ月物金利は、ともにマイナス圏で推移しました。

2024年３月下旬から期間末にかけては、2024年３月の金融政策決定会合においてマイナス金利政策の解除が決定されたことや、その後も金融政策の正常化の一環として追加利上げが実施されたことなどから、無担保コール翌日物金利は0.98%近辺で期間末を迎えました。ＴＢ３ヵ月物金利は、マイナス金利政策の解除が決定されたことを受けてプラス圏での取引となり、その後は日銀による利上げなどを受けて上昇し、0.90%近辺で期間末を迎えました。

（為替市況）

信託期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

円／メキシコペソの推移



円／インドネシアルピアの推移



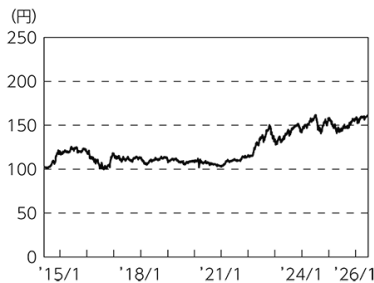
円／オーストラリアドルの推移



円／カナダドルの推移



円／アメリカドルの推移



円／ブラジルレアルの推移



円／ロシアルーブルの推移



当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

当ファンドは2014年6月2日の設定以来、約12年にわたり運用してまいりました。このたび、約款の規定に基づき、信託終了日を2026年6月24日として償還いたしました。

これまでのみなさまのご愛顧に対しまして、心より厚くお礼申し上げますとともに、今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA）

当ファンドでは、先進国市場や新興国市場の利回りの高い通貨や債券に投資し、投資機会に応じて追加的な収益を獲得するために積極的な調整を行ないました。期間を通じて高水準のインカム収益およびキャピタルゲインの獲得や、投資対象通貨の対円での上昇による収益機会の獲得に注力しました。

ファンダメンタルズ（基礎的条件）の底堅い債券への投資を通じてポートフォリオ全体の市場変動による影響を抑制しました。直近数年では、メキシコへの投資がポジティブに寄与して、メキシコペソが対円で上昇したほか、債券投資による収益も堅調となりました。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、元本の安全性を重視した運用を行いました。わが国の国債および格付の高い公社債の購入、それらの現先取引なども活用しました。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもありました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

信託期間中における分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、分配を見送りいたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

○ １万口当たりの費用明細

(2025年 7 月18日～2026年 6 月24日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 159	% 1.072	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(55)	(0.371)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(99)	(0.670)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.031)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	14	0.094	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷 費 用 等)	(13)	(0.090)	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
合 計	173	1.166	
期中の平均基準価額は、14,800円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

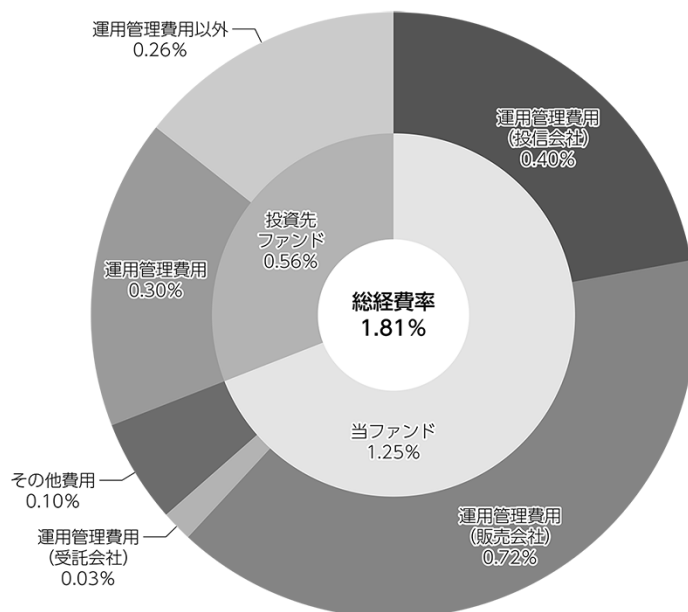
(注) 各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.81%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.81
①当ファンドの費用の比率	1.25
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.30
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.26

(注) 当ファンドの費用は１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「１万口当たりの費用明細」にてご確認ください。ただし、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2025年 7 月18日～2026年 6 月24日)

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA	千口	千円	千口	千円
		56, 418	22, 208	704, 834	281, 347

(注) 金額は受け渡し代金。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
マネー・アカウント・マザーファンド		千口	千円	千口	千円
		23	23	263	266

○利害関係人との取引状況等

(2025年 7 月18日～2026年 6 月24日)

利害関係人との取引状況

＜世界標準債券ファンド（１年決算型）＞

区分	買付額等			売付額等	うち利害関係人との取引状況	
	A	うち利害関係人との取引状況 B	$\frac{B}{A}$		C	D
投資信託証券	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
	22	22	100. 0	281	281	100. 0

＜マネー・アカウント・マザーファンド＞

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三井住友信託銀行株式会社です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2025年 7 月18日～2026年 6 月24日）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況（2025年 7 月18日～2026年 6 月24日）

該当事項はございません。

○組入資産の明細（2026年 6 月24日現在）

2026年 6 月24日現在、有価証券等の組入れはございません。

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘	柄	期首(前期末)	
		口	数
ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA			千口 648,415
合	計		648,415

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	
		口	数
マネー・アカウント・マザーファンド			千口 240

○投資信託財産の構成

(2026年 6月24日現在)

項 目	債 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	266,376	100.0
投資信託財産総額	266,376	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2026年 6月24日現在)

項 目	債 還 時
	円
(A) 資産	266,376,104
コール・ローン等	266,368,876
未収利息	7,228
(B) 負債	1,536,470
未払解約金	53
未払信託報酬	1,298,358
その他未払費用	238,059
(C) 純資産総額(A－B)	264,839,634
元本	169,104,790
償還差益金	95,734,844
(D) 受益権総口数	169,104,790口
1万口当たり償還価額(C／D)	15,661円27銭

(注) 当ファンドの期首元本額は182,464,028円、期中追加設定元本額は7,533,913円、期中一部解約元本額は20,893,151円です。

(注) 1口当たり純資産額は1.566127円です。

○損益の状況 (2025年 7月18日～2026年 6月24日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	20,281,292
受取配当金	20,183,039
受取利息	98,253
(B) 有価証券売買損益	16,210,060
売買益	17,423,993
売買損	△ 1,213,933
(C) 信託報酬等	△ 3,034,617
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	33,456,735
(E) 前期繰越損益金	50,318,213
(F) 追加信託差損益金	11,959,896
(配当等相当額)	(76,924,880)
(売買損益相当額)	(△64,964,984)
償還差益金(D＋E＋F)	95,734,844

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2014年 6 月 2 日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2026年 6 月 24 日		資産総額	266,376,104円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	1,536,470円
				純資産総額	264,839,634円
受益権口数	20,000,000口	169,104,790口	149,104,790口	受益権口数	169,104,790口
元本額	20,000,000円	169,104,790円	149,104,790円	1万口当たり償還金	15,661円27銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	1,589,230,455円	1,688,962,603円	10,628円	0円	0%
第2期	1,016,778,501	847,793,183	8,338	0	0
第3期	808,050,983	741,646,083	9,178	0	0
第4期	580,675,151	504,473,968	8,688	0	0
第5期	485,848,282	434,649,583	8,946	0	0
第6期	358,452,479	319,821,971	8,922	0	0
第7期	317,054,502	311,221,946	9,816	0	0
第8期	283,545,070	319,954,679	11,284	0	0
第9期	214,798,278	273,666,105	12,741	0	0
第10期	202,758,771	283,820,760	13,998	0	0
第11期	182,464,028	248,790,978	13,635	0	0

○償還金のお知らせ

1 万円当たり償還金（税込み）	15,661円27銭
-----------------	------------

○お知らせ

約款変更について

2025年7月18日から2026年6月24日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、2025年9月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。
 - ①委託会社である当社がその社名を「日興アセットマネジメント株式会社」から「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。（第1条、第16条）
 - ②当社の社名変更に伴ない、電子公告を掲載する当社ホームページのURLを「www.nikkoam.com/」から「www.amova-am.com」に変更いたしました。（第49条）
- 当ファンドについて、「一般社団法人投資信託協会」の合併に伴ない、その記載を「一般社団法人資産運用業協会」に変更すべく、2026年4月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（付表、第8条）

その他の変更について

当ファンドが投資対象とするルクセンブルグ籍外国投資信託「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」につき、2025年9月1日付けにて投資顧問会社である「日興アセットマネジメント ヨーロッパリミテッド」がその社名を「アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッド」に変更いたしました。